

第4回BUG Art Award 応募情報

応募受付は2026年1月21日より開始

株式会社リクルートホールディングスが運営するBUGでは、第4回BUG Art Awardの応募受付を2026年1月21日(水)10時より開始します。

BUG Art Awardは制作活動年数10年以下のアーティストに向けたアワードです。審査員からのフィードバックの提供をはじめ、展示・設営に関する相談会の開催など多数の機会を設け、新しい表現に挑戦したい、アーティストとしてキャリアを築きたい、という想いを応援します。前回(第3回)は37都道府県から418件の応募がありました。居住地に限らず機会をひろくことを重視し、1都3県以外に在住の方には審査に伴う交通費を支給しています。

また、BUG Art Awardでは審査観点の固定化を避けるため、審査員の任期は3回を上限としています。そのため第4回からは、新たに美術批評家の沢山遼氏と東京オペラシティアートギャラリーシニアキュレーターの能勢陽子氏を審査員に迎えます。第3回から審査員を務める美術家の百瀬文氏とやんツー氏、第1回・第2回で審査員を務めた内海潤也氏(石橋財団アーティゾン美術館 学芸員)を含む5名で審査を行います。



■ 応募受付期間

2026年1月21日(水)10:00 ~ 2月18日(水)17:00

■ 第4回からの審査員ご紹介

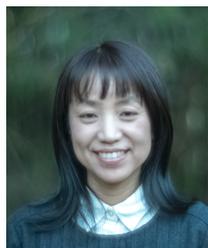


・沢山遼(美術批評家)

1982年生まれ。美術批評。武蔵野美術大学美学美術史研究室准教授。著書に『絵画の力学』(書肆侃侃房、2020年)。共著に、国立新美術館編『今、絵画について考える』(水声社、2023年)などがある。

<審査員コメント>

作品の真価はいつも、明示的には現れない。それは潜在的な徴としてはじめ現れ、いずれ起こる世界の変動とともに次第にその威力を示しはじめる。同じように、BUGは予徴として、多くの人間に気づかれないうま現れ、既存の制度、人を拘束する規範、価値体系や権威がすでに失効していることを告げる。BUGは欠陥ではなく、むしろBUGによって既存の社会、システムの欠陥が指摘されるのである。BUGとは、それまで不可視化されていた世界の亀裂を押し広げ、未知の世界、新たな認識を開く「知らせ」である。果たしてBUGを、私たち審査員は見出すことができるだろうか? できないかもしれない。おそろしいことだ!



・能勢陽子(東京オペラシティアートギャラリー シニアキュレーター)

1997年から2024年まで豊田市美術館学芸員。2025年から東京オペラシティアートギャラリーシニアキュレーター。これまで企画した展覧会に、「テーマ展 中原浩大」(2001年/豊田市美術館)、「曽根裕 | ダブルリバー島への旅」(2002年/豊田市美術館)、「ガーデンズ」(2006年/豊田市美術館)、「Blooming: 日本-ブラジル きみのいるところ」(2008年/豊田市美術館)、「Twist and Shout Contemporary Art from Japan」(2009年/バンコク・アート&カルチャーセンター/国際交流基金主催・共同企画)、「石上純也-建築の新しい大きさ」展(2010年/豊田市美術館)、「反重力」展(2013年/豊田市美術館)、「杉戸洋-こっぴとあまつぶ」展(2016年/豊田市美術館)、「ビルディング・ロマンス」(2018年/豊田市美術館)、「あいちトリエンナーレ2019」(2019年/あいちトリエンナーレ実行委員会:名古屋市、豊田市)、「ホー・ツーニエン: 百鬼夜行」(2021-2022年/豊田市美術館)、「ねこのほそ道」(2023年/豊田市美術館)、「未完の始まり: 未来のヴンダーカンマー」(2024年/豊田市美術館)。美術手帖、WEBマガジンartscape等に、執筆多数。

<審査員コメント>

審査員が一方向的に審査するのではない、新しい形のアワードです。その過程では、応募者と審査員の双方向のやり取りやフィードバックが取り込まれます。また受賞者は、審査員の最大公約数的な判断で選ばれるのではなく、応募者それぞれの個性や審査員の持ち味も掬い取られる、稀有な機会になりそうです。審査は、単に「選ぶ」側と「選ばれる」側に分かれるのではなく、互いに感応が引き起こされる、ある意味で「出会い」の場でもあります。これまでになかった賞と展覧会のありかたを模索する本アワードで、新鮮だったり、思いがけなかったり、圧倒されたりする、多様な作品に出会うことを楽しみにしています。

■審査員 五十音順・敬称略

内海潤也 | 石橋財団アーティゾン美術館学芸員

沢山遼 | 美術批評家

能勢陽子 | 東京オペラシティアートギャラリーシニアキュレーター

百瀬文 | 美術家

やんツー | 美術家

■出品料：無料

■選出後の機会：

[ファイナリスト]

・ファイナリスト展への参加

・作品制作費20万円の支給

※20万円を上回る制作費は、応募者ご自身の負担となります。ただし、制作費を使い切った上で発生する輸送費はBUGで負担します。

※東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県以外に在住の方には、日本国内移動分の往復交通費（公共交通機関の普通運賃）を別途お支払いたします。（会場での各種打ち合わせ、ファイナリスト展設営、公開最終審査、ファイナリスト展撤去および事務局が要請したイベント登壇時。）

・広報（プレスリリース配信／広告出稿／チラシ・ポスターなどの告知物作成、大学や美術関係者などへの配布等）

・展示や設営に関する相談会の実施

・カメラマンによる展示風景撮影（スチル、動画）

[グランプリ受賞者]

・グランプリ個展の開催

・個展開催費（作品制作費+設営撤去費）300万円の支給

※東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県以外に在住の方には、日本国内移動分の往復交通費（公共交通機関の普通運賃）をお支払いたします。

・アーティストフィーの支払い

・広報（プレスリリース配信／広告出稿／チラシ・ポスターなどの告知物作成、大学や美術関係者などへの配布等）

・関連イベントの開催

・展示担当スタッフによる個展開催サポート（テーマ設定、展示プランの立案、展示図面の作成、その他アドバイス等）

・インストーラー（展示設営技術者）や展示担当スタッフによる個展の設営および撤去の協力

・カメラマンによる展示風景撮影（スチル、動画）

・展覧会レビュー提供

<応募概要>

詳細はBUGのウェブサイトより応募要項をご確認ください。

<https://bug.art/award/>

■第4回BUG Art Award 審査の流れ

※詳細はBUGのウェブサイトより応募要項をご確認ください。

応募受付

2026年1月21日(水)10:00 ~ 2月18日(水)17:00

オンラインより応募資料提出



一次審査

2026年4月12日(日)

応募資料の審査によりセミファイナリスト20名(組)を選出
二次審査前に展示図面／展示プラン詳細をご提出いただきます
(2026年5月8日(金)〆切)。



二次審査

2026年5月17日(日)

審査員と一対一の対面審査によりファイナリスト6名(組)を選出



ファイナリスト展

2026年9月9日(水)~10月4日(日)

ファイナリスト6名(組)によるグループ展を開催
展示までに、ファイナリスト同士での打ち合わせや
設営に関する相談会を実施します。



公開最終審査

2026年9月15日(火)

ファイナリスト展期間中の公開最終審査にてグランプリ1名(組)を決定
ファイナリストが展示作品とグランプリ受賞時の個展プランについて
プレゼンテーションを行い、審査員の議論を経てグランプリを決定します。



グランプリ受賞者個展

2026年10月予定

■アワード概要

第4回 BUG Art Award

<応募受付>

2026年1月21日(水) 10時 ~ 2月18日(水)17:00

<応募要項>

<https://bug.art/award/>

<主催> BUG

BUG

〒100-6601 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー1F
Gran Tokyo SOUTH TOWER 1F, 1-9-2, Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo

交通アクセス

JR東京駅八重洲南口直結
東京メトロ京橋駅8番出口から徒歩5分
東京メトロ銀座一丁目駅1番出口から徒歩7分

<施設情報>

- ・BUGはオフィスビル1階にあり、入口から段差なくアクセスできます。カフェの奥に広がる空間がBUGです。
- ・授乳室は設置していません。
- ・多目的トイレはビル内の同フロアに1つあります。(おむつ交換台、ベビーチェア、オスメイト設置)
- ・トイレは地下1階(八重洲地下街)に複数あります。エレベーターまたはエスカレーターが利用できます。
- ・BUGには専用駐車場はありません。ご来館には公共交通機関をご利用ください。

※BUGでは様々な事情を持つ皆様をお迎えできるよう、スタッフが可能な範囲でサポートや情報提供に努めています。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://recruit-holdings.co.jp/support/form/>

お問い合わせ先:株式会社リクルートホールディングス リクルートアートセンター 広報担当
Mail : info.bug@r.recruit.co.jp